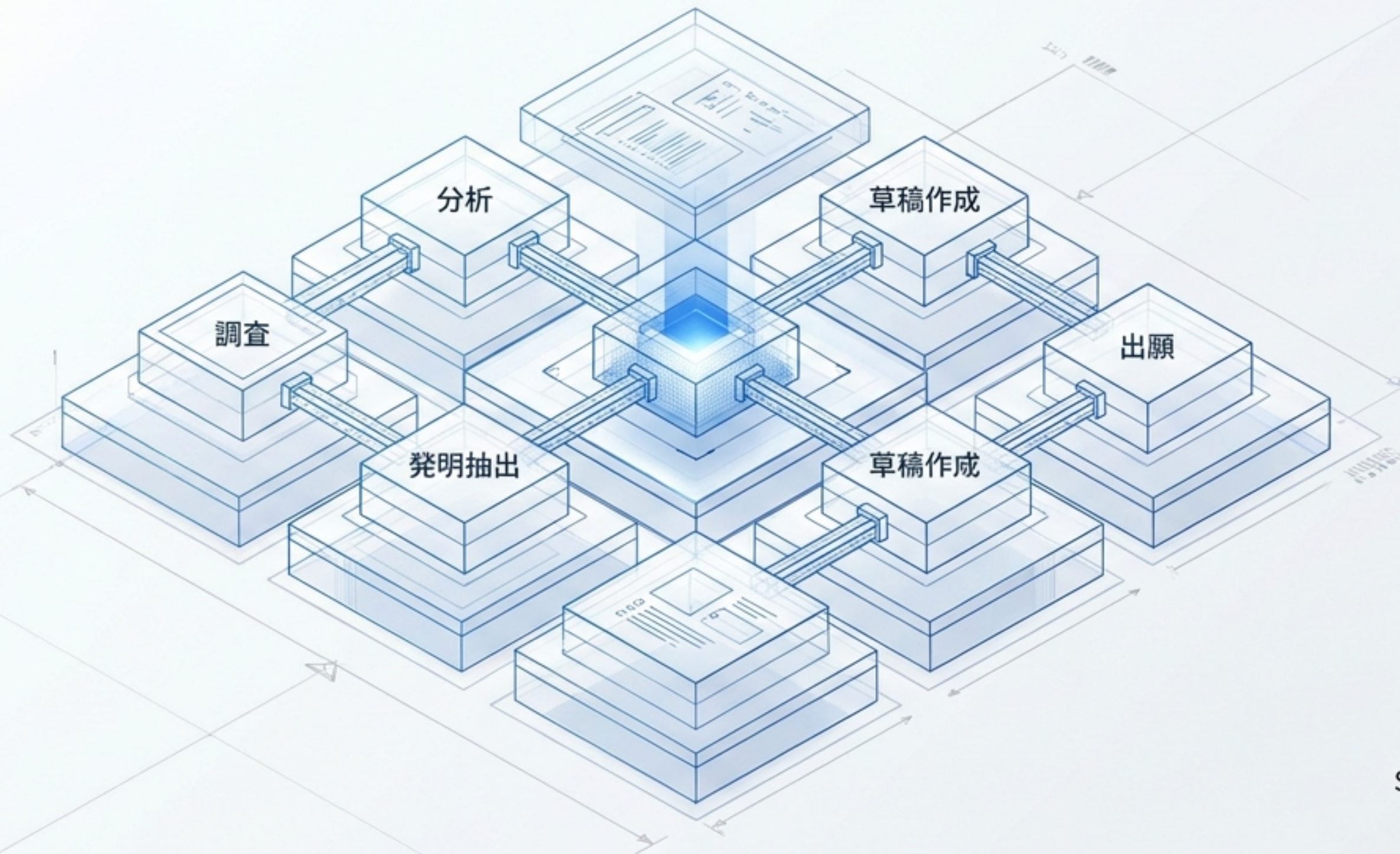


# サマリア2026年 戦略的解剖レポート

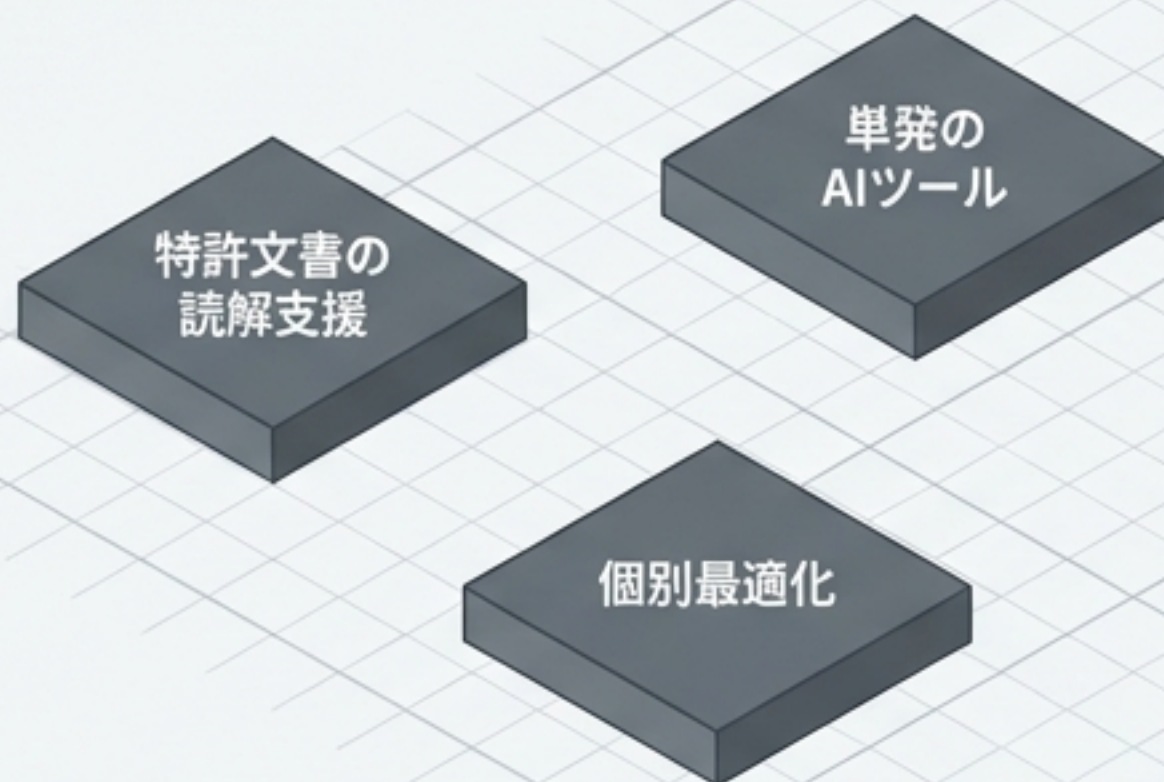
読解支援ツールから「知財実務のOS」へ——特許・技術・ビジネスモデルから紐解く現在地と未来像



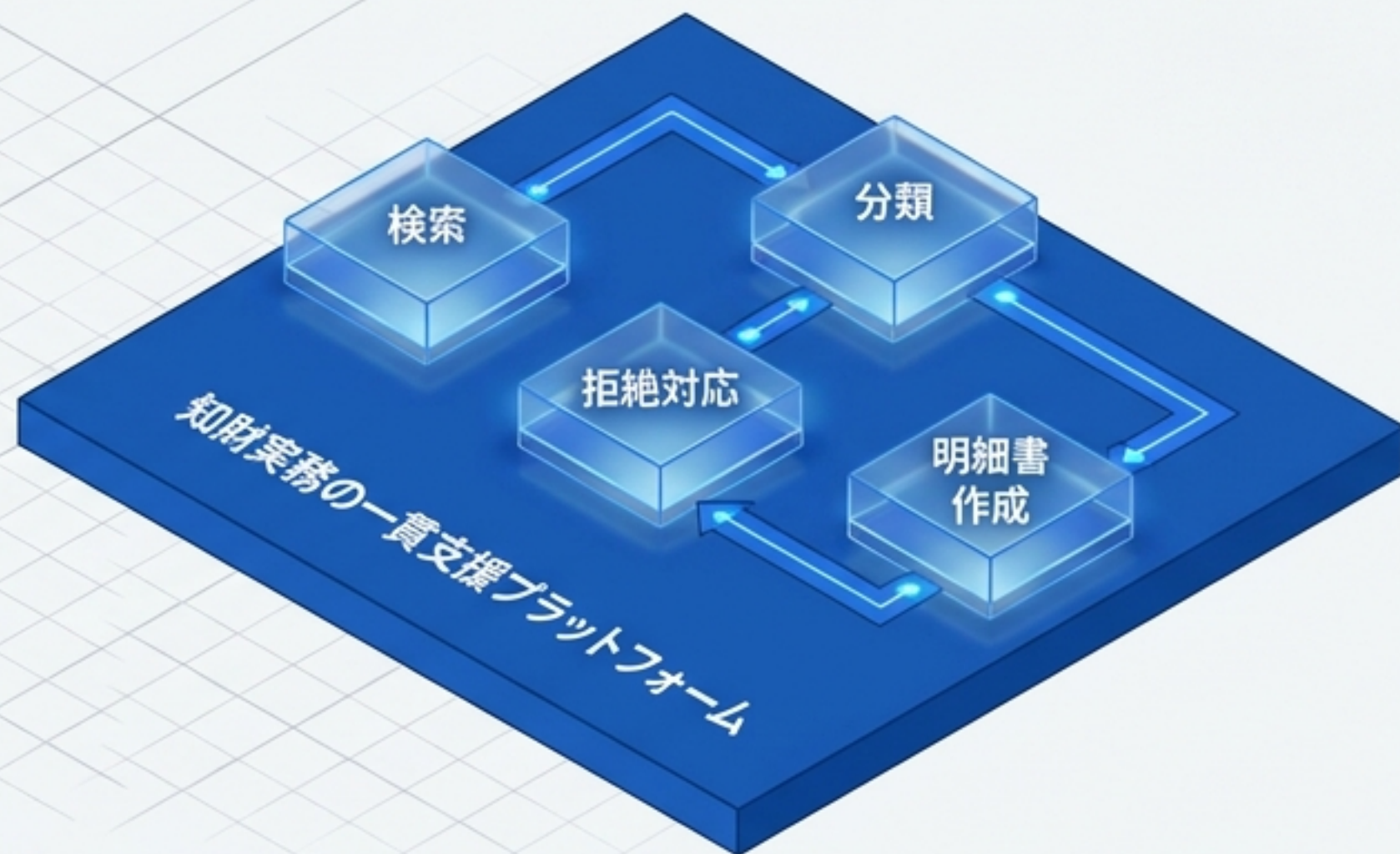
2026年10月  
Strategic Research Team  
Executive Briefing

# サマリー：サマリアの2026年時点の到達点

Before 2024



As of 2026



## ワークフローの全域カバー

調査から権利形成まで、前後工程を統合。



## 知財化されたAI制御技術

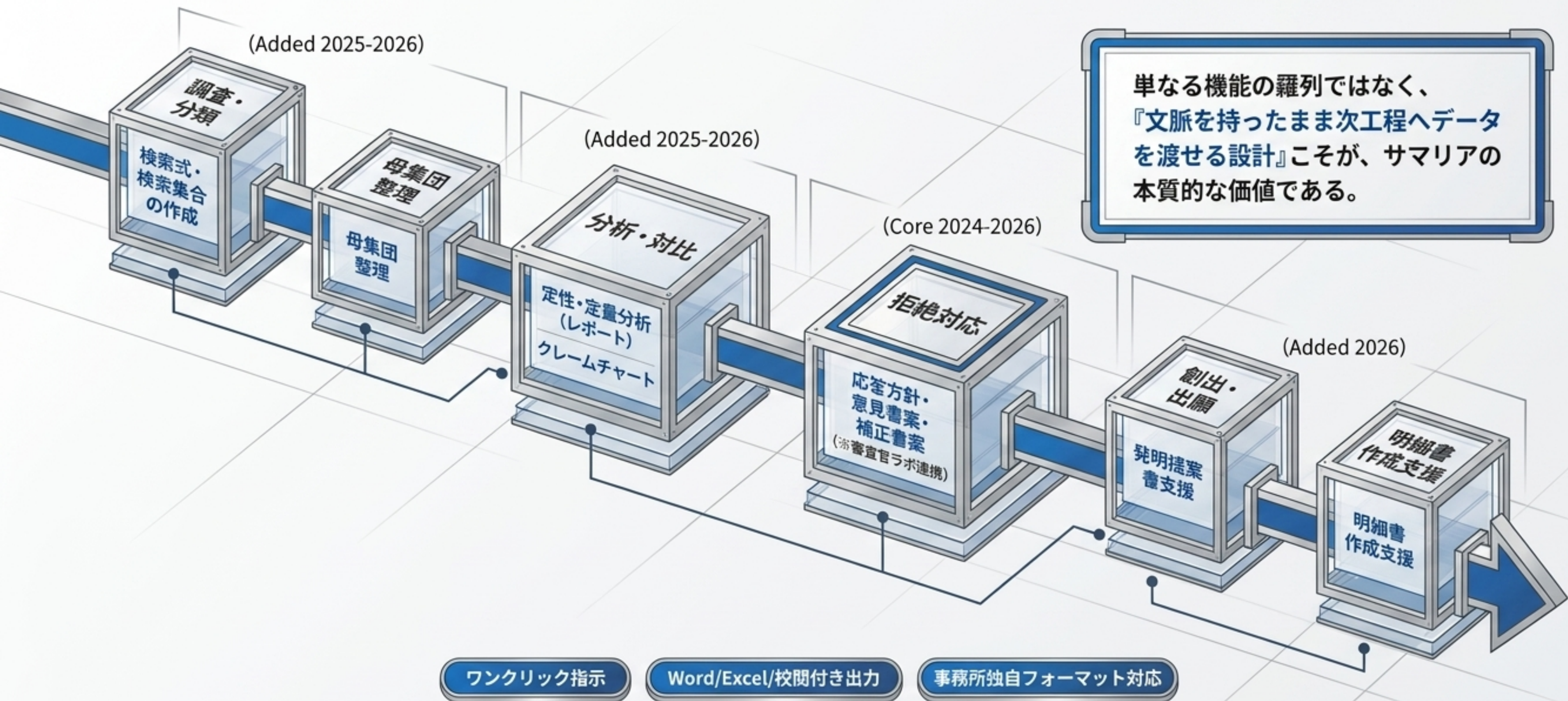
単なるLLM利用ではなく、プロンプト制御と構造化工程を特許化（20件以上の生成AI関連特許）。



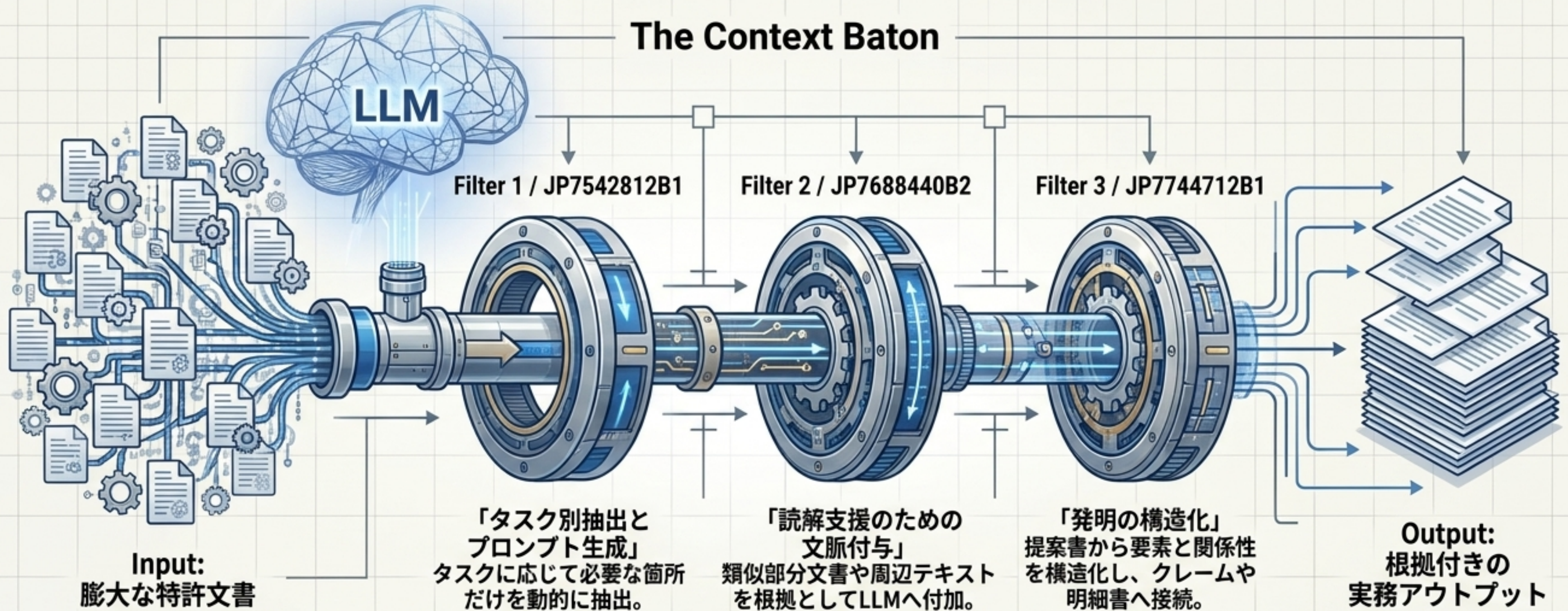
## インフラ型ビジネスモデル

全社導入を前提とした低価格帯と透明性の高いSaaS課金。

# バリューチェーンの拡張：文脈を次工程へ渡す「機能連鎖」



# 技術的源泉：LLMの出力を実務向けに制御する「特許群」



サマリアの知財ポートフォリオは「AIを使うこと」ではなく、「特許実務向けの文脈切り出し・構造化・生成制御」を押さえている。

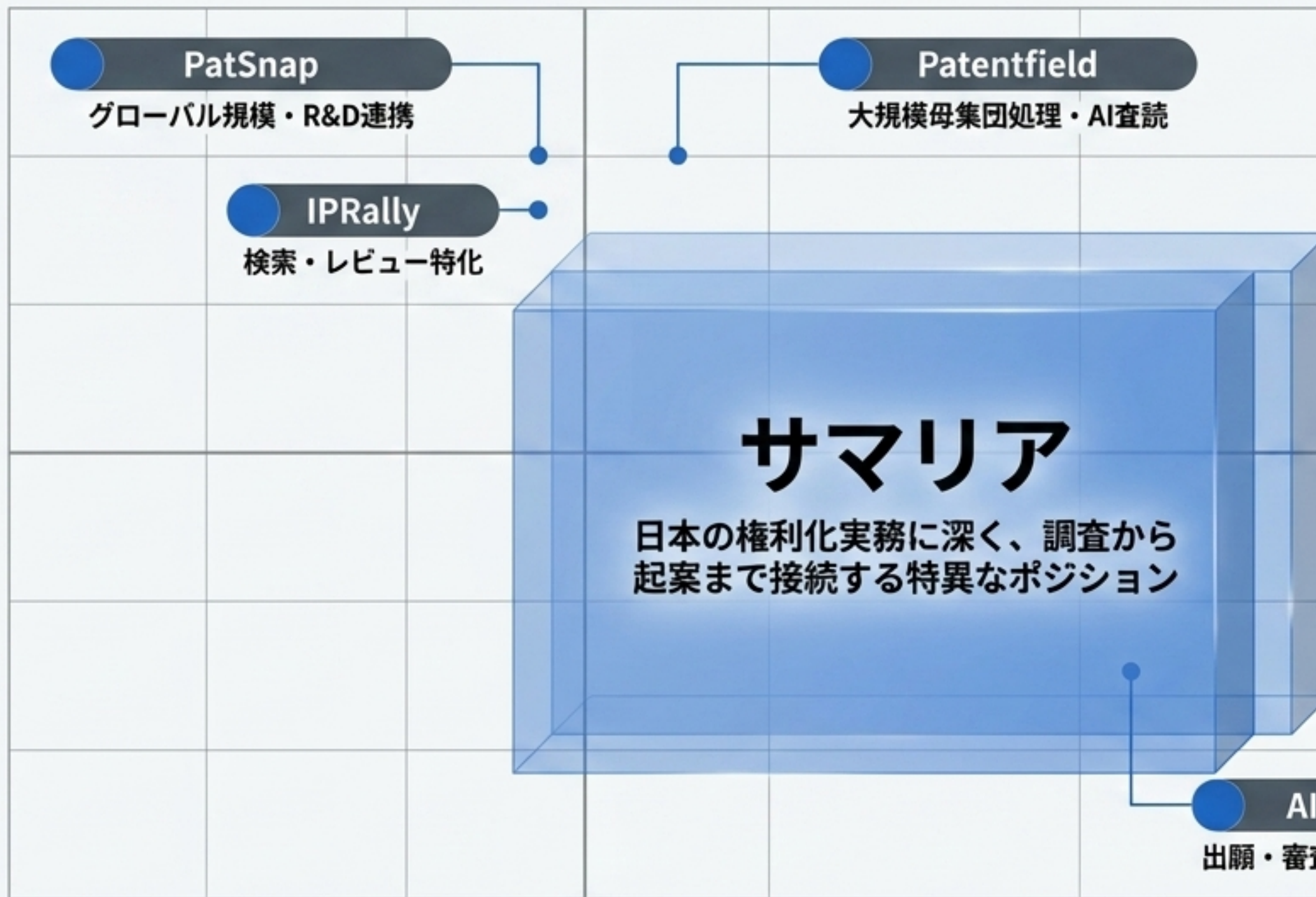
# 技術アプローチの比較：生成AIに対する各社の思想の違い

企業・特許 (Company/Patent)	アプローチ (Approach Icon & Title)	コアの強み (Core Strength)
AI Samurai (JP7086424B1)	 出願書面の直接生成	明細書の各部分を約3分で自動作成
NRI (JP7421859B2)	 学習モデル主体の生成	類似公報からの請求項・図面生成
楽天グループ (JP7564914B1)	 クレームアップ箇所の発見	再学習済みLLMによるテキスト推薦
サマリア (JP7542812B1等)	 ワークフローのオーケストレーション	タスク別の入力切り出し・構造化・工程間の接続

競合が「個別工程の高性能化・直接生成」を目指す一方、サマリアは「特許業務を工程分解し、証拠付きでつなぐ基盤技術」を押さえている。

# 市場ポジショニング：日本実務×フルカバレッジのスイートスポット

検索・分析中心



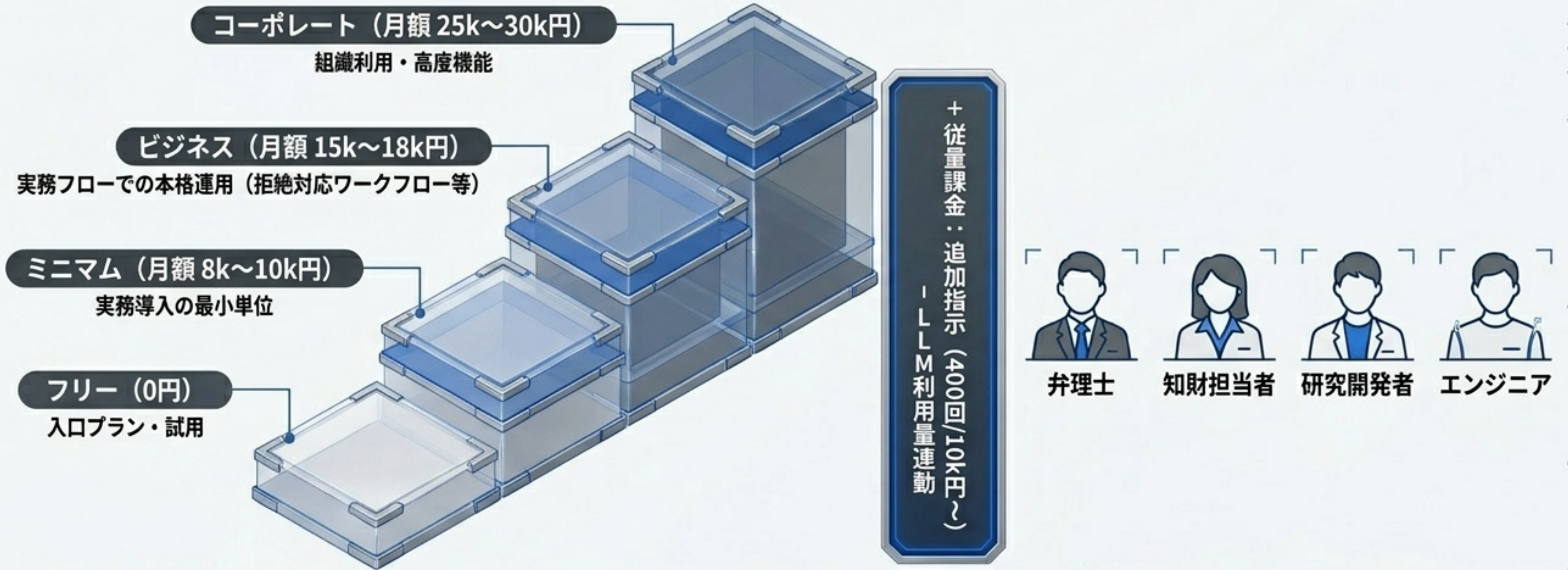
グローバル/  
大量処理・  
高単価

日本実務/  
ワークフロー最適化  
・導入容易

出願・権利化中心

Insight: サマリアの勝ち筋は、母集団の大量処理ではなく国内権利化ワークフローの深さと、分析から起案まで分析から起案までの「接続品質」にある。

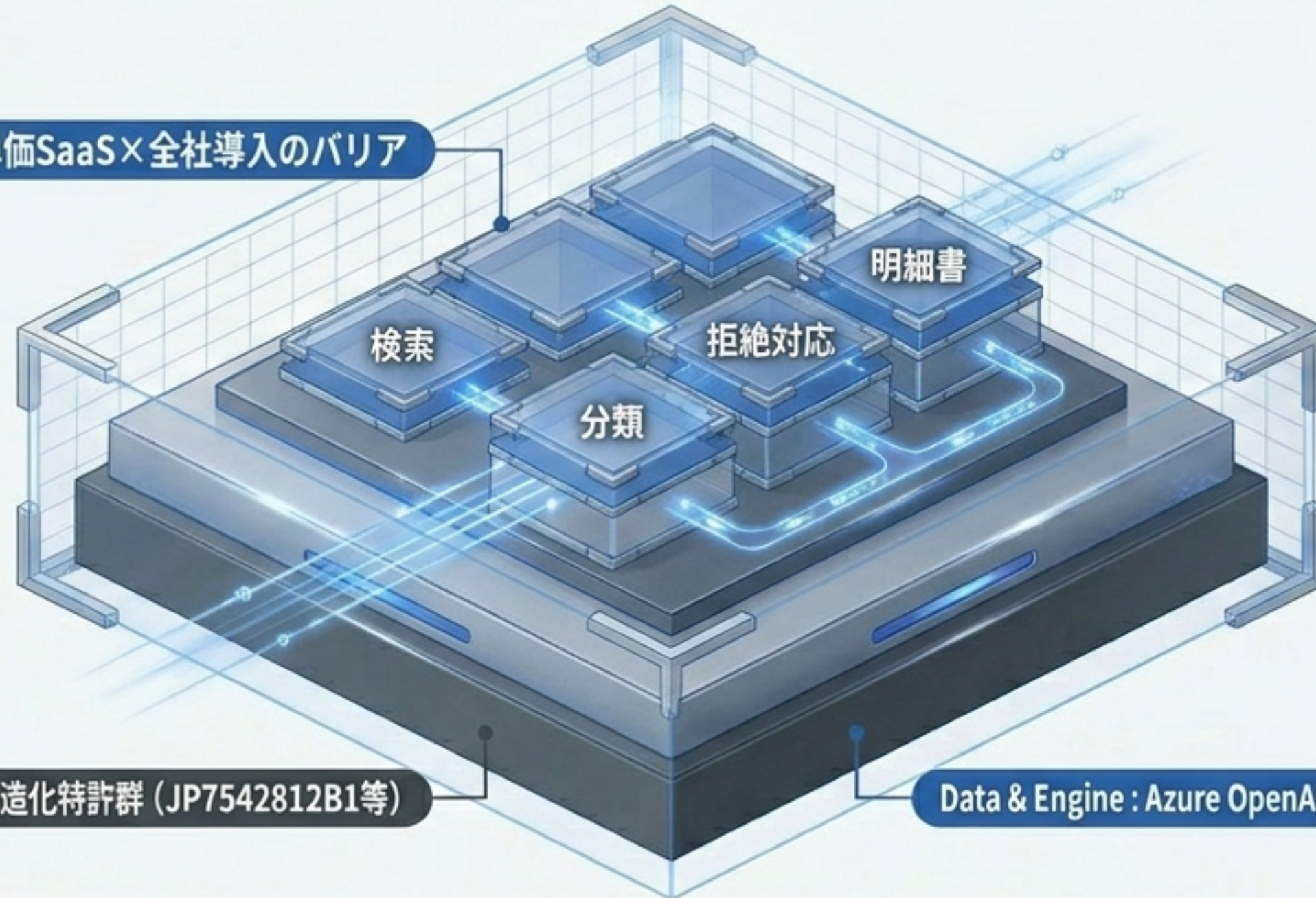
# ビジネスモデル：部門共通の「インフラ」化を狙う価格戦略



Strategic Analysis: 「個人の便利ツール」ではなく「部門横断の業務インフラ」として入り込む価格設計。透明性の高い公開価格が、特許事務所や企業での「メインツール化」を後押ししている。

# 統合インサイト：サマリアは「AIツール」ではなく「知財実務のOS」である

Business Model：低単価SaaS×全社導入のバリア

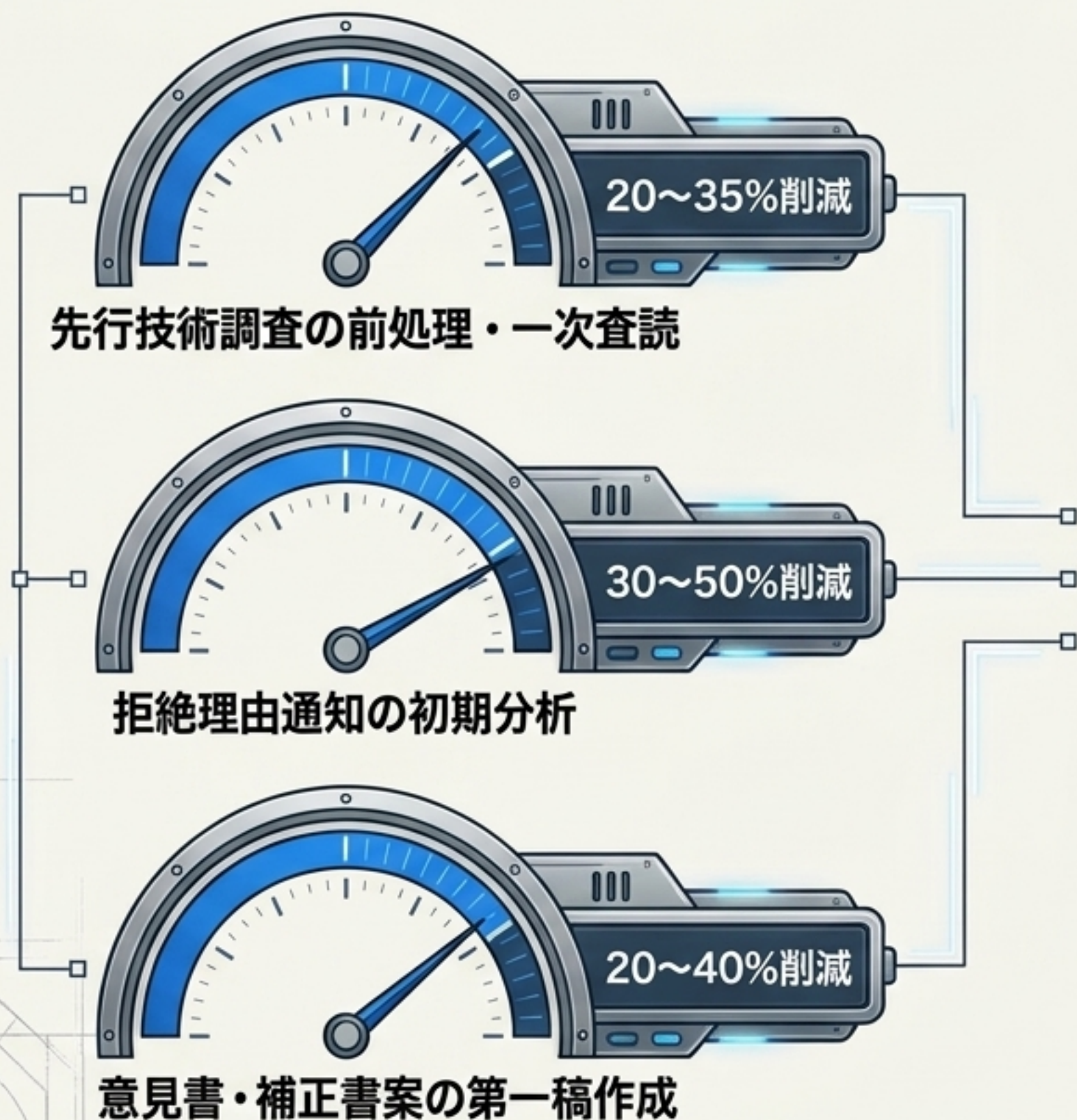


Core Tech：プロンプト制御と構造化特許群（JP7542812B1等）

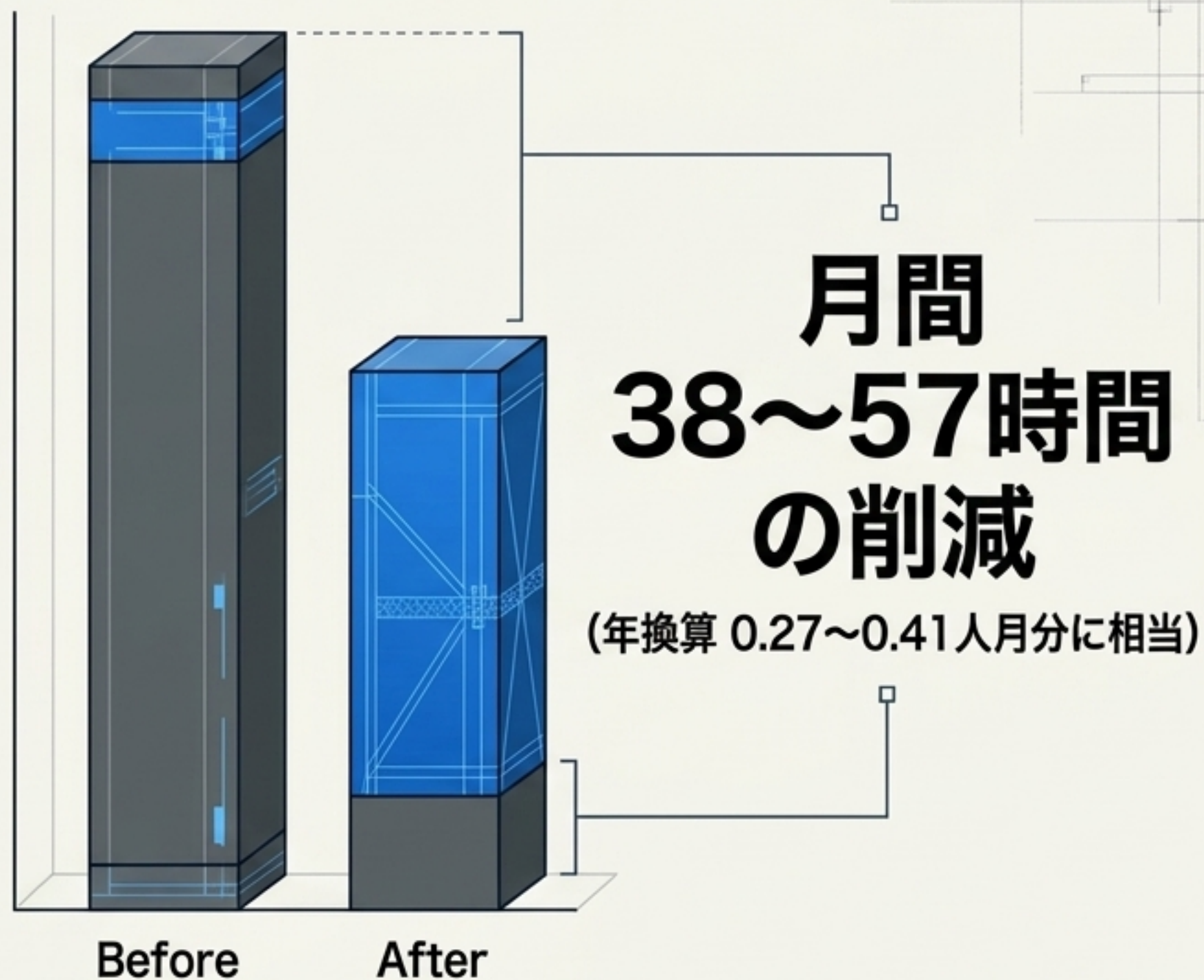
Data & Engine：Azure OpenAI, AWS, 審査官ラボ連携などのセキュア基盤

各機能が独立しているのではなく、技術・データ・ビジネスモデルが一体となり、「文脈を保持したまま全工程をオーケストレーションする共通基盤（OS）」として機能している。これが2026年時点の最大の差別化要因である。

# コスト圧縮シミュレーション：高負荷・反復作業の劇的な効率化

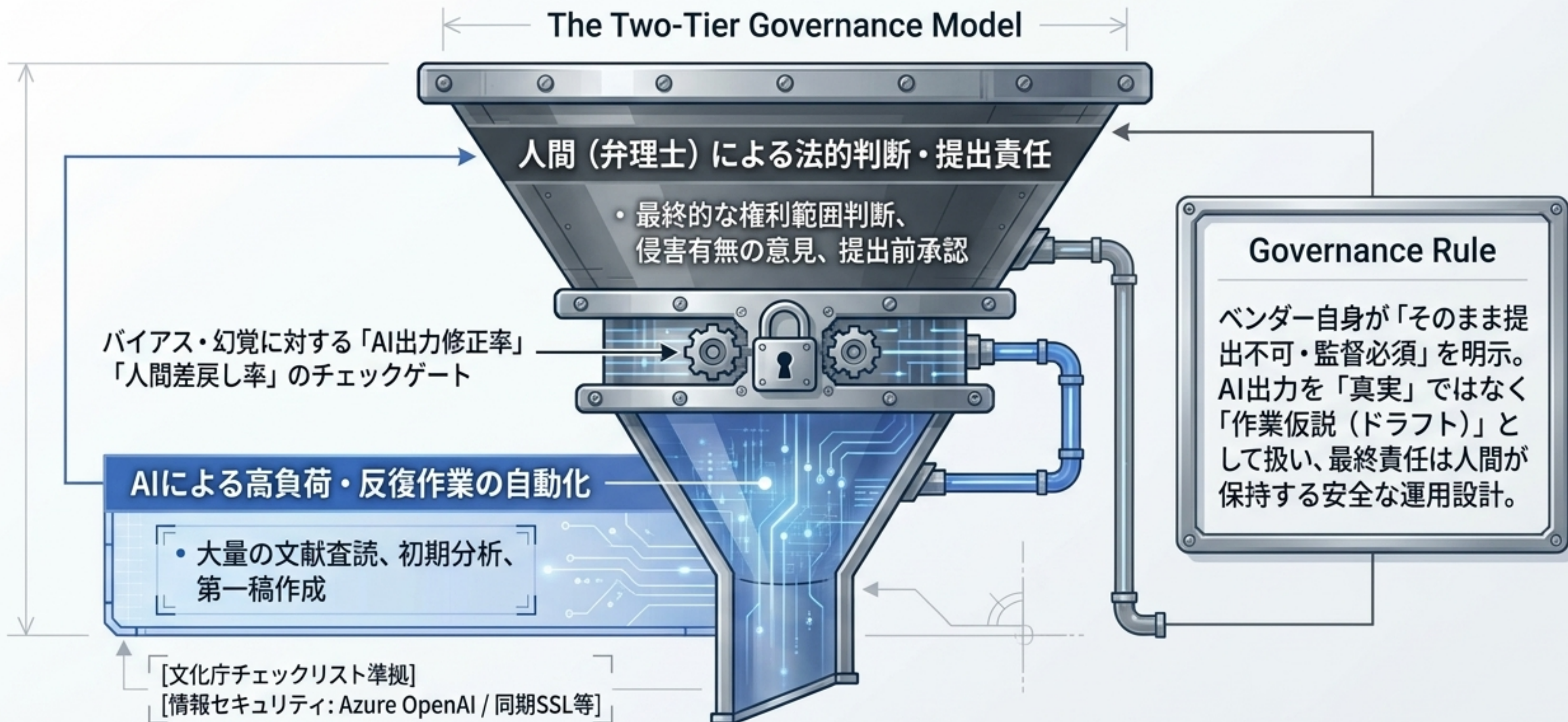


中規模知財チームの月間削減時間シミュレーション

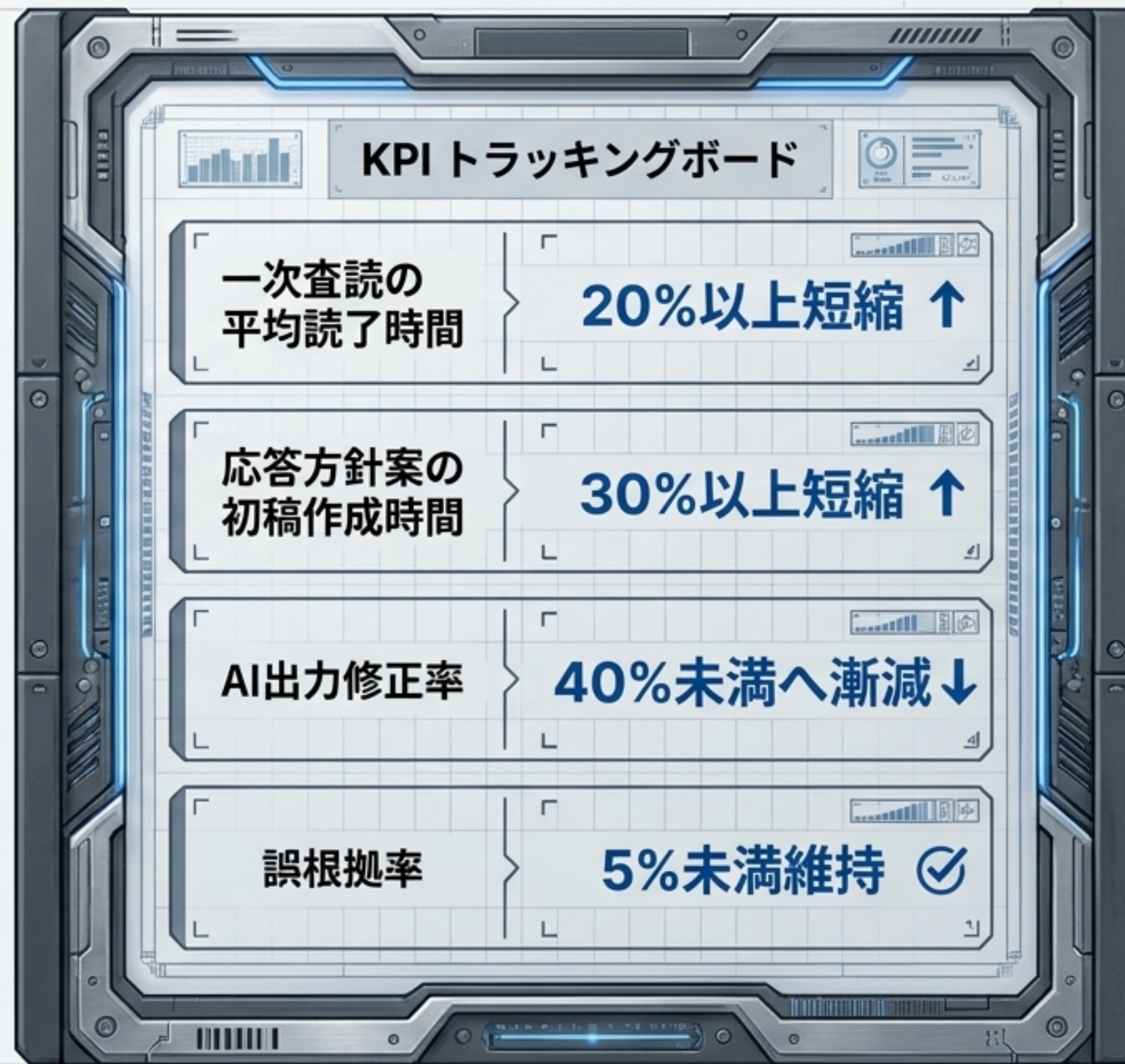
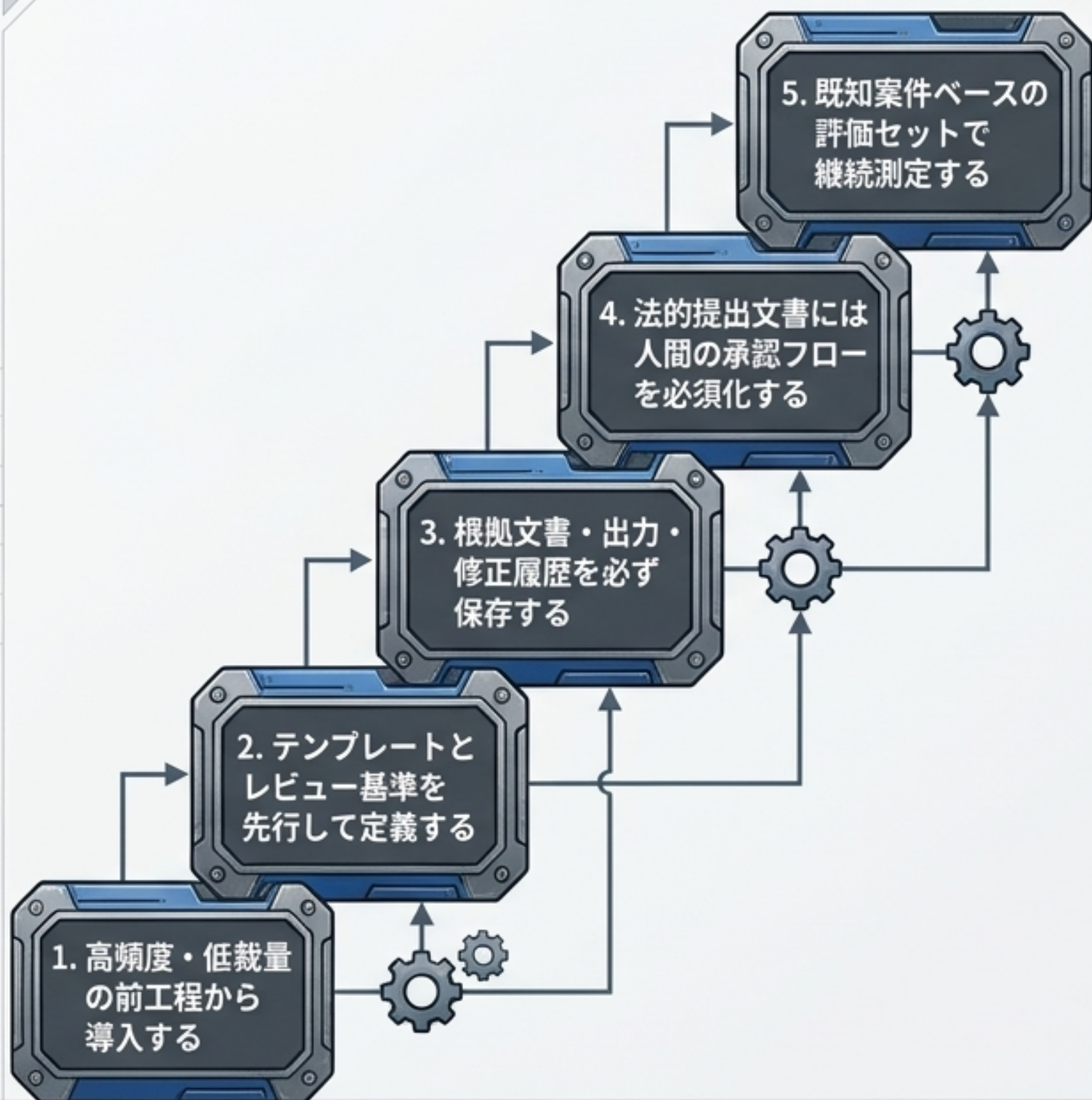


※プロンプト・テンプレート整備後の保守的な試算。初期3ヶ月は習熟期間として半分の効果を見込む。

# リスクとガバナンス：法的判断の「二層構造モデル」



# 導入ガイドライン：実務定着のための5つの原則とKPI



# 未来予想図：知財OSを完成させる24ヶ月のロードマップ

## 1 根拠リンク付き出力・ 評価基盤 (High Priority)

2026年秋。読解・対比画面への根拠スパン表示（再現性と監査性の向上）。

## 2 横断データグラフ (High Priority)

2026年末。パテントファミリー・引用関係のビュー化。

## 3 マルチモーダル解析 (High Priority)

2027年前半。特許図面・表・論文のPDF解析、図面QA・対比。

## 4 実務エージェントの高度化 (Medium Priority)

2027年前半。根拠付き応答方針の提供、明細書支援の正式化。

機能の拡充から、証拠付き品質・マルチモーダル・データ連携による『真のプラットフォーム化』へ。